

## 南インド洋東エンダビー海盆の地磁気異常

## Magnetic anomalies in the East Enderby Basin, the Southern Indian Ocean

# 野木 義史 [1]; 北田 数也 [2]; 島 伸和 [3]

# Yoshifumi Nogi[1]; Kazuya Kitada[2]; Nobukazu Seama[3]

[1] 極地研; [2] 神戸大・自然科学・地球惑星; [3] 神戸大学内海域センター

[1] NIPR; [2] Earth and Planetary Sci., Kobe Univ.; [3] Research Center for Inland Seas, Kobe Univ.

南インド洋エンダビー海盆の地磁気異常縞模様とフラクチャーゾーンは、 Gondwana 分裂過程を理解するための鍵となるものである。しかしながら、現在の Gondwana モデルの中でインド-南極・オーストラリア間の分裂は、インド洋で同定されている数少ない中生代の地磁気異常縞模様とフラクチャーゾーンの制約だけを使用して、南極大陸の海岸線にほぼ垂直な南北の拡大を想定している。これは、南インド洋エンダビー海盆の地球物理データが乏しいことに起因しており、インド-南極・オーストラリア間の初期海洋底拡大過程は未だ不明である。

第 47 次南極地域観測夏隊において、衛星による重力異常図から明らかな南インド洋エンダビー海盆の北西-南東走向の構造物に沿って、船上地磁気 3 成分測定を行った。この観測により得られた地磁気異常プロファイルは、活動を停止した海嶺軸の存在を示唆するほぼ対称的な地磁気異常パターンを示し、対称軸が地形の高まりとほぼ一致することがわかった。また地磁気異常プロファイルのパターンから、これらは地磁気異常番号 M1 から M9 に対応するものと推定される。得られた地磁気 3 成分データを使用して、地磁気異常縞模様の走向も決定した。この結果、拡大軸の走向は、地磁気異常番号 M5 あたりで、北東-南西方向からほぼ東西方向に変化した可能性が示された。本講演では、これらの結果を元に、東エンダビー海盆の海洋底拡大の発展に関して議論を行う。